

「台東病院・老健千束祭」の開催意義と職員の認識 —全職員を対象としたアンケート調査を通して—

野本潤矢¹⁾ 楠本直紀¹⁾ 加藤淳平¹⁾ 廣田謙一¹⁾ 中野博美¹⁾ 山田隆司¹⁾
嶋田雅子²⁾ 川畑輝子²⁾ 中村正和²⁾

【要旨】 台東区立台東病院・老人保健施設千束では、地域ヘルスプロモーション病院としての役割の一環として、台東病院・老健千束祭(以下、病院祭)を開催した。病院祭の評価と今後の地域ヘルスプロモーション病院としての取り組みの示唆を得るため、全職員305名に対してアンケート調査を行った。アンケートの有効回答者数は219名(回答率:71.8%)であった。病院祭を通して、他部署職員とのコミュニケーションの強化や地域に大切な病院であることの認識につながっていた一方で、業務時間外の作業が負担に感じた職員も多かった。病院祭の開催は、地域ヘルスプロモーション病院の取り組みのひとつとして意義があることや開催への企画・実施のプロセスが職員間の分野横断的な取り組みの契機となり、人材育成の場として有用であったと考えられた。

KEY WORD 地域ヘルスプロモーション病院, 人材育成, 多職種連携

I. はじめに

台東区立台東病院・老人保健施設千束(以下、台東病院)では、2019年度から台東区からの指定管理受託に際し、3つの運営方針の1つに「地域ヘルスプロモーション病院としての役割」を位置づけた。台東病院では、これまでに患者や利用者だけに限らず、区と協働したがん予防講演会や小中学校での防煙教室の開催など、地域住民を対象とした予防活動に取り組んできた。その活動の一部として、公益社団法人地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センターと協働して実施しているHPH(Health Promoting Hospitals and Health services)活動^{1),2)}や職員におけるHPHに向けたワークショップ(以下、WS)^{3),4)}がある。WSにおいては、HPH活動の一

環として、病院祭の企画・提案がなされ、実施に向けたプロジェクトチームが発足された。病院祭開催の目的は、台東病院が「地域ヘルスプロモーション病院」として、患者・利用者の治療や療養支援だけでなく、患者や地域住民の予防活動に取り組む病院であることを地域住民に知ってもらうことに加え、職員のヘルスプロモーションの理解や活動意欲の向上、職種間のコミュニケーションの強化が図られることとした。

病院祭の実施に向けて、2019年6月より多職種職員で構成されたチームを中心に検討を重ねた。また、人材育成の場として活用するために、就業3年目の職員は研修の一環として、各チームに配属し、リーダー等の役割を担った。

実際の病院祭(2019年9月8日開催)においては、テーマごとに多職種で構成されたチームが

1) 台東区立台東病院・老人保健施設千束, 2) 地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター
(筆頭著者連絡先: 〒111-0031 東京都台東区立千束3-20-5 台東区立台東病院・老人保健施設千束)

原稿受付2020年3月31日/掲載承認2020年7月2日

それぞれのテーマごとに催しを行った。具体的には、「健康チェック」「フレイル予防」「禁煙推進」「食生活支援」「認知症ケア」「在宅ケア」「施設見学」「技能実習生紹介」「ボランティア紹介」の9つのテーマで、専門性を活かした情報提供や体験および日常業務の紹介を行った⁵⁾。

今回、病院祭の評価と今後のHPHとしての取り組みのヒントを得るために台東病院全職員に対してアンケートを実施した。その結果を考察も交えて報告する。

II. 方法

1. 対象

台東病院に勤務する全職員305名。

2. 調査方法

無記名の自己記入式質問票によるアンケート調査を実施した。調査期間は、病院祭開催後の2019年10月1日～10月8日とし、各部署(診療部、看護介護部、医療技術部、事務部)ごとに配付し回収を行った。

3. アンケートの項目

病院祭のかかわり方、病院祭にかかわった職員の所属、病院祭の目的の認知度、病院祭にかかわって感じたこと、施設と地域の関係者との連携強化について、病院祭に参加できなかった理由、来年度の病院祭へのかかわり、今後の病

院祭への意見等とした。また、アンケートの作成、集計は台東病院の健康推進委員会の委員が中心となって実施した。

III. 結果

回答者数は219名、未回答者は86名、回答率は71.8%であった。

1. 病院祭でのかかわり方(表1)

回答者219名のうち、企画からかかわった職員が44名(20.1%)、当日のみかかわった職員が43名(19.6%)、全くかかわらなかった職員が132名(60.3%)であった。結果として、病院祭に企画段階からかかわった、または、当日かかわった職員は回答者の39.7%であり、これは職員全体の28.5%であった。

2. 部署ごとに見た病院祭へのかかわり(表2)

病院祭にかかわった職員を部署ごとにまとめると、企画からかかわった職員の内訳は、診療部2人、看護介護部19人、医療技術部16人、事務部7人であった。当日のみかかわった職員の内訳は、診療部1人、看護介護部28人、医療技術部6人、事務部8人であった。かかわらなかった職員の内訳は、診療部4人、看護介護部89人、医療技術部26人、事務部11人、その他2人であった。かかわり方に違いはあるものの、所属をまたいで多部署がかかわっていた。

表1 病院祭でのかかわり方 n=219

職員の立場	回答数 (%)
企画からかかわった	44 (20.1)
当日だけかかわった	43 (19.6)
かかわらなかった	132 (60.3)

表2 部署ごとに見た病院祭へのかかわり n=219

	診療部	介護看護部	医療技術部	事務部	その他
企画からかかわった	2	19	16	7	
当日のみかかわった	1	28	6	8	
かかわらなかった	4	89	26	11	2
計 (人)	7	136	48	26	2

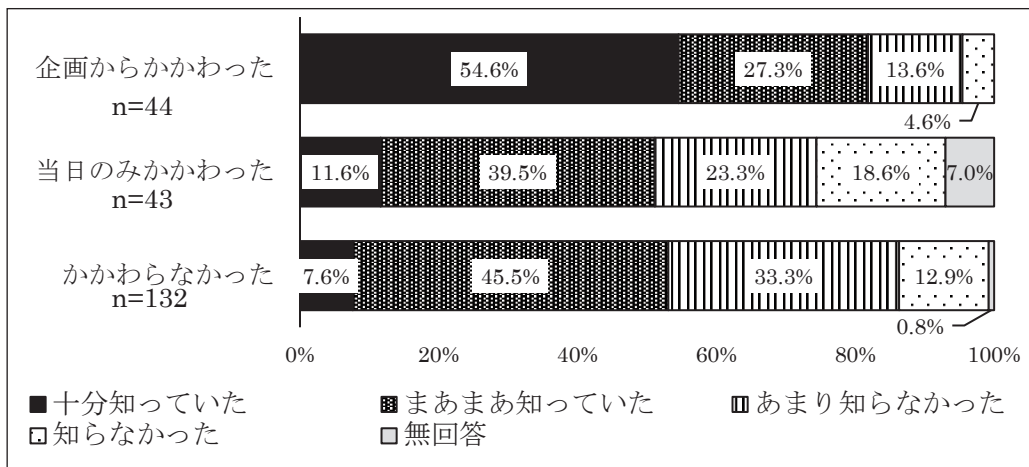


図1 病院祭の目的の認知度

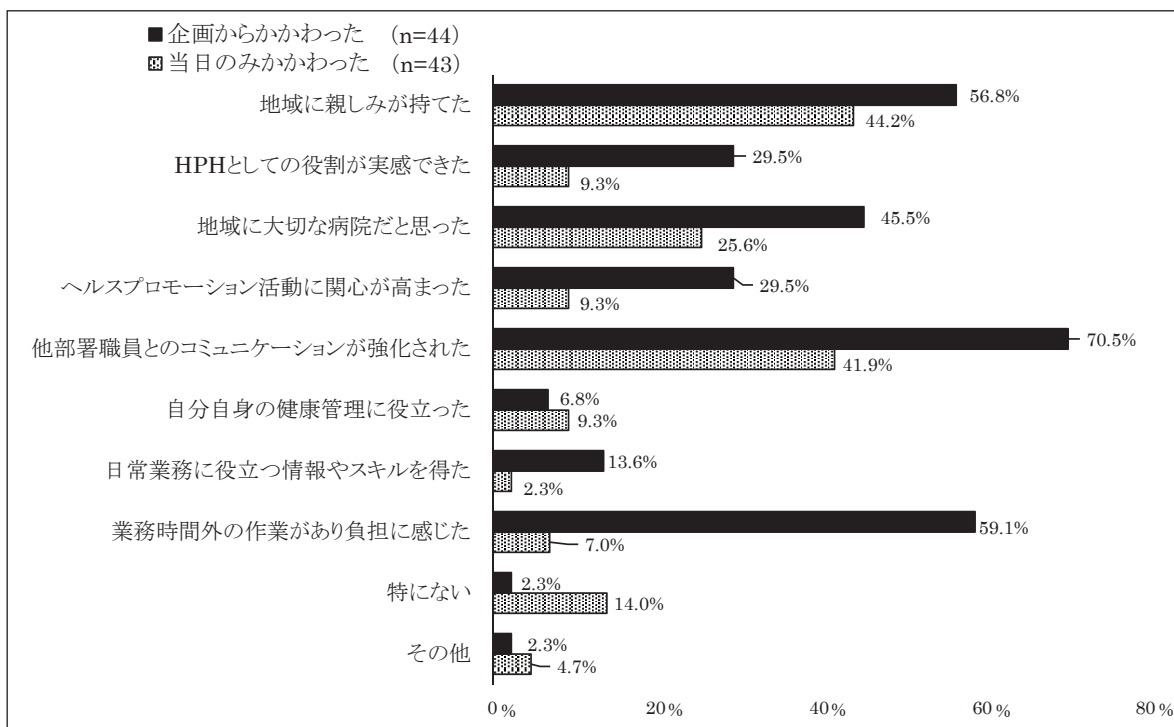


図2 病院祭にかかわって感じたこと(複数回答可)

3. 病院祭の目的の認知度(図1)

回答者219名のうち、病院祭の目的を「十分知っていた」「まあまあ知っていた」と回答した人を合わせた割合は、企画段階からかかわった職員が81.9%であったのに対して、当日かかわった職員は51.1%、かかわらなかった職員は53.1%であった。

4. 病院祭にかかわって感じたこと(図2)

「病院祭にかかわった」と回答した87名の感

じたことでは、「他部署職員とのコミュニケーションの強化」を挙げた職員が最も多く、その内訳は企画段階からかかわった職員が70.5%、当日からかかわった職員が41.9%であった。「地域に親しみが持てた」項目では、企画段階からかかわった職員で56.3%、当日かかわった職員で44.2%であった。全体的に企画段階からかかわった職員は、当日かかわった職員と比較して、「地域に大切な病院であることの認識」「HPHとしての役割の認識」や「ヘルスプロモーション活

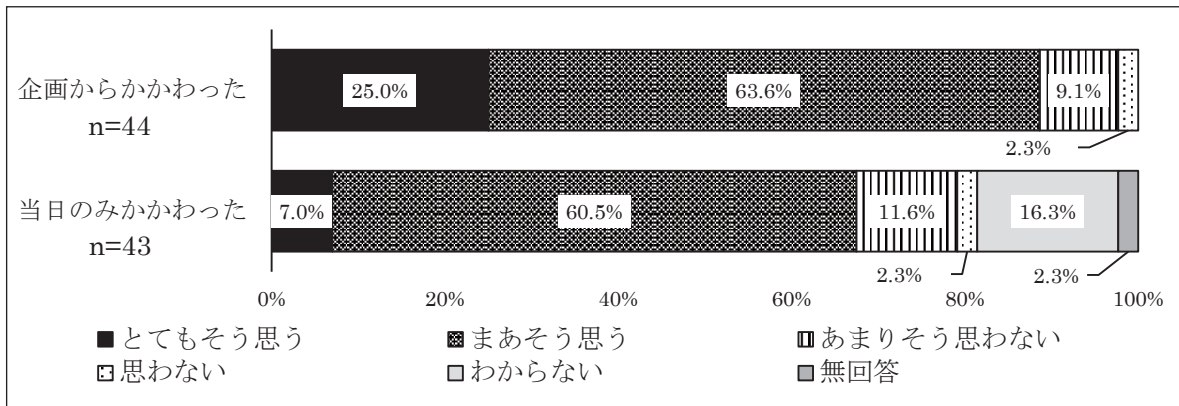


図3 施設と地域の関係者との連携強化について

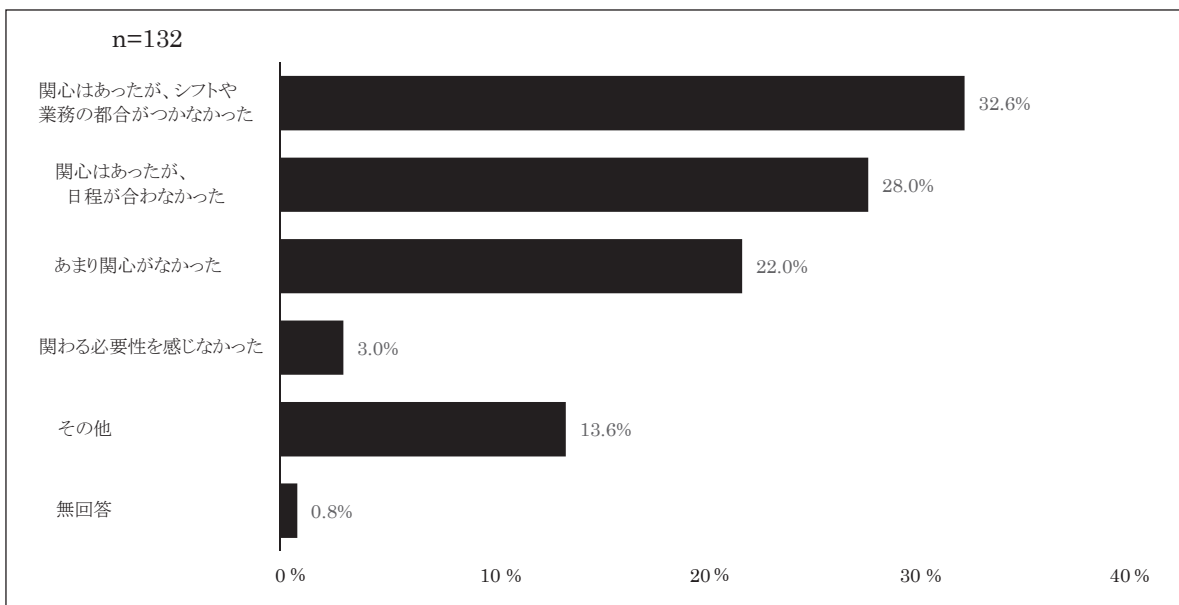


図4 参加できなかった理由

動への関心の高まり」を感じた割合が高い傾向にあった。一方で、企画からかかわった職員の59.1%が業務時間外の作業があり負担に感じたと回答した。

5. 施設と地域の関係者との連携強化について (図3)

「地域と連携強化につながった」と感じた者の割合は、企画段階からかかわった職員では88.6%、当日かかわった職員では67.5%であった。

6. 参加できなかった理由(図4)

「病院祭にかかわらなかった」と回答した132名の参加できなかった理由は、「関心はあったが

シフトや業務の都合がつかなかった」が32.6%、「関心はあったが日程が合わなかった」が28.0%で、約6割が勤務や業務の都合であった。一方で、「あまり関心がない」が22.0%、「必要性を感じない」が3.0%であり、参加しなかった職員のうち約25.0%は関心がない、または必要性を感じないという回答であった。

7. 来年度の病院祭のかかわり(図5)

回答者219名のうち、「来年度、病院祭にかかわりたい」と回答した者の割合は、企画段階からかかわった職員の84.1%、当日かかわった職員の79.0%、かかわらなかった職員の72.8%であり、参加の時期やかかわりの有無にかかわら

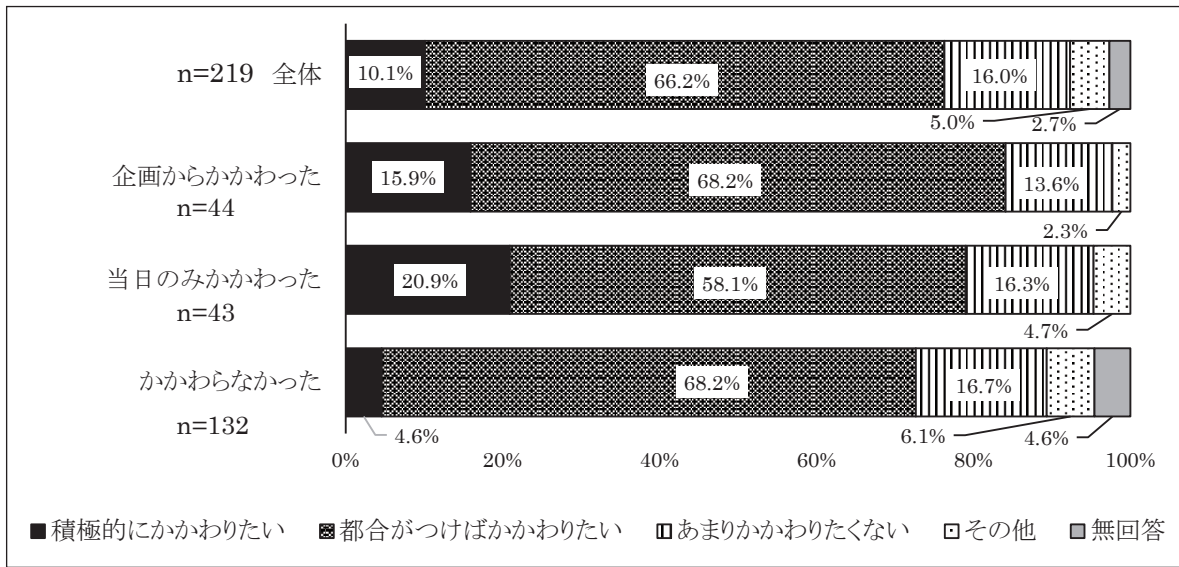


図5 来年度の病院祭のかかわりについて

ず、回答者の8割が来年度も病院祭にかかわりたいと答えた。自由記載でも、かかわりの有無に関わらず病院祭の継続や地域への浸透を期待する意見が多数寄せられた。

8. 今後の課題

職員アンケートの自由記載から、大きく3つの課題があがった。1点目は広報の強化である。病院祭の準備を早くから開始し、広報の周知を早めることや近隣の町内会だけでなく台東区全体の町内の回覧板で案内することなどの意見が挙げられた。2点目は予算(活動費)の確保である。年度ごとに開催するのであれば、活動費を明確に予算化してほしいという声が聞かれた。3点目は、業務負担である。通常業務に加えて病院祭の準備に負担感を感じたという意見や通常業務の時間を割いて多職種メンバーで日時を合わせることに苦労したとの声があがった。

IV. 考 察

1. 職員のヘルスプロモーションの理解

台東病院ではこれまで、さまざまなヘルスプロモーション活動^{1),2)}を行ってきたが、企画や運営はごく限られた職員に限定されており、特に経験年数の浅い職員が関わる機会が十分ではな

かった。そのため、今回の病院祭では、就業3年目を中心とした多職種職員で構成されたチームを発足し、企画・運営を行ってきた。終了後のアンケートでは、「HPHとしての役割が実感できた」「ヘルスプロモーション活動の関心が高まった」と回答した職員は、企画から病院祭に関わった職員の約3割であった。この結果は、経験年数の若い職員がチームリーダーなどの役割を担うように構成されたことや、企画段階から分野横断的に取り組んだことが、全体の3割という高い割合での職員の参加につながったと考えられる。

現在、地域包括ケアシステムが推進されているわが国において、「病院完結型医療」から、「地域完結型医療」への転換が進められている。このような時代において、病院では、患者の疾病や障害に対応するだけでなく、ヘルスプロモーションの考え方を理解し、医療に関わるスタッフが医療のあり方を再認識する必要がある⁶⁾。

今回の病院祭は、病院や老健で勤務する職員にとって、普段接することの少ない地域に住む人々との交流を深める貴重な機会となっていた。特に、経験年数の若い職員は、公的医療保険等の範囲内の業務を担当する事が多く、地域の住民との関わりは貴重な時間であったと思われる。また、病院祭は、台東病院が患者や利用

者の治療だけでなく、地域住民の健康づくりに取り組むことの周知も目的としていた。各チームは、地域の人々に対して、ヘルスプロモーションの意義やその必要性を唱える活動の検討を重ねてきた。以上のような経験は、職員が地域における病院のあり方や地域ヘルスプロモーション病院としての役割とは何かを考える機会となり、病院祭を通してヘルスプロモーションの理解につながったと推察された。

2. 多職種連携を含む人材育成の場としての病院祭

高齢者が可能な限り住み慣れた地域で生活していくためには、医療・介護・住まいなどの一体的に提供されるサービスが求められるが、日々の臨床現場では、患者背景の多様性の増大や提供するサービスの増大などにより、不確実性や複雑性の高い状況に直面する事が多々ある。これらの状況に対処するためには、思考が固定化しないよう専門内外の人たちの意見やアイデアを積極的に受け入れることが求められる⁷⁾。つまり、臨床現場でのさまざまな問題に対処するためには、個人の考えにとらわれず、多職種職員の意見に耳を傾ける必要がある。

今回の病院祭のプロジェクトチームは、日々の業務では直接やりとりの少ない職種や職員で構成されていたが、それぞれの専門職の立場から意見を出し合い、ブースごとに催し物の企画・運営を行った。病院祭の感想では、「他部署職員とのコミュニケーションの強化」を挙げた職員が最も多く、その内訳は企画段階からかかわった職員が70.5%、当日からかかわった職員が41.6%であった。これらのことから、病院祭は、職員同士のコミュニケーションを促進する場として活用できることが示唆された。また、病院祭開催への企画・実施といった、業務外の活動は、非公式な多職種連携教育の機会であることが言及されている⁸⁾。多職種連携教育の観点からも、病院祭は、職員間の分野横断的な取り組みの契機となり、人材育成の場として有用

であったと考えられる。

3. 今後の病院祭に向けて

来年度の病院祭のかかわりに関して、参加の時期やかかわりの有無にかかわらず、回答者全体の8割が次年度も病院祭にかかわりたいと答えた。地域のヘルスプロモーション活動の一環として、多くの職員が今後も病院祭の継続を希望していることは、活動への理解と活動意欲の向上につながったためと考えられる。また、病院祭を通じて、職員の人材育成が図られ、HPHとしての活動を広く展開することで、地域住民への介護予防や健康づくりにつながると推察でき、病院祭を継続していくことは意義深いと考えられる。一方で、企画からかかわった職員の半数以上が業務時間外の作業があり負担に感じたと回答した。医療系職種において、業務負担が大きくなるほど連携への関心が薄まる傾向もある⁹⁾と指摘されており、次の開催に向けて、時間外勤務や時間内の作業等も含めた準備に関する負担の軽減が求められることが示唆された。

参考文献

- 1) 保科ゆい子, 他: 台東区立台東病院・老人保健施設千束における禁煙推進プロジェクトの活動と今後の展望. 月刊地域医学 2016;30:864-848.
- 2) 川畑輝子, 他: 医療・介護施設における職員の食生活改善のための食環境整備に向けて. 月刊地域医学 2018;32:1090-1096.
- 3) 楠本直紀: 地域のヘルスプロモーション病院を目指して. 月刊地域医学 2019;33:34-38.
- 4) 嶋田雅子, 他: 地域ヘルスプロモーション病院を目指して「地域連携の会」報告. 月刊地域医学 2019;33:382-385.
- 5) 嶋田雅子, 他: 地域ヘルスプロモーション病院としての病院祭の開催「台東病院・老健千束祭」. 月刊地域医学 2019;33:946-950.
- 6) 馬場園明: 地域で病院が担う健康を支援する役割. 病院 2019;78:408-412.
- 7) 宮田靖志: プライマリ・ケア現場の不確実性・複雑性に対処する. 日本プライマリ・ケア連合学会誌 2014;37(2):124-132.
- 8) Barr H, Koppel I, Reeves S, et al. Effective Interprofessional Education Argument, Assumption & Evidence. Blackwell, 中山藩子訳. 役に立つ専門職連携教育 - 議論仮説根拠. 新潟医療福祉大学, 2005:68-69.
- 9) 藤田益伸, 他: 介護・医療の専門機関の在宅療養の業務量が連携意識に及ぼす影響. 日本の地域福祉 2012;25:39-48.